

國立台中科技大學 留學報告書

本間俊

自己紹介

経営学科の本間俊です。出身は新潟県です。

学校や留学の期間、費用の詳細

台湾の国立台中科技大学に 2019 年 9 月から 2020 年 6 月まで留学
ビザが約 10000 円、寮費は半年約 5 万円、食費は月約 3 万円

留学したきっかけ

将来日本以外でも働くことができるように、英語のほかに中国語を学びたいと思ったのがきっかけです。

留学の準備

計画は留学の 1 年ほど前から、本格的な準備は半年前から始めました。留学前の勉強法は生活で最低限使う中国語と、それ以外に台湾の文化やマナーを調べました。



授業の詳細

・履修した科目 経済、翻訳、統計と資料分析、中国語、アジア圏の文化、体育

・授業形態

経済の授業は教科書が日本語の授業もあるので、まだ中国語になれていなくても、理解できます。自分の決めた企業を分析し、レポートを書いて、グループで発表するという授業がありました。

翻訳の授業は中→日、日→中どちらもあります。この授業は中国語のいろいろな表現を学べます。また自然な日本語で翻訳するのは意外と難しかったです。

統計と資料分析の授業は Excel を使って回帰分析する方法を学びました。自分の担当する教科書の範囲をパワーポイントにまとめて生徒の前で発表し解説します。

留学生に向けた中国語の授業は初級と中級に分かれていますが、両方履修できます。先生は基本英語で解説しますが、日本語も話せる先生でした。



アジア圏の文化の授業は毎回他の学校の先生が講演をしにやってきます。日本の先生も一度来ました。（しかも福井県立大学の教授でした。）意外と知らないアジアのことをたくさん学べます。

体育はさまざまなスポーツをします。バドミントン、テニス、陸上、バスケ、ビリヤードもありました。



大学生活について

学校の雰囲気はとても良いです。陸上のトラックもあり、その中央にはテニスコートもあります。授業で使用されていないときは、いつでも自由に使えます。現地の治安ですが、とても良好です。事件のニュースはほとんど聞きませんでした。夜あるいていても人がたくさんいて安全でした。交通の便は台中はとても良いです。バスの路線が張り巡らされえていて、どこでも行けます。また、現在建設中の MRT が完成するまでバスの運賃が 10 キロ以内無料ということで、交通費はほとんどかかりません。寮は学校の敷地内にあり、教室までとても近いです。学校を出るとすぐ近くに夜市があって、そこでいろいろ買うことができます。デパートもすぐ近くにありま

居住環境について

前期は寮に住んでいたのですが、まず寮について紹介します。部屋はユニットバス付の4人部屋で、私の部屋は韓国人、台湾人、ペルー人と一緒に住んでいました。が、その台湾人とペルー人は実は日本に住んでいて、日本語を話せるのでほとんど日本人でした。冷蔵庫がなかったので食べ物は保存できませんでした。部屋を出ると飲水機があって、そこで飲み水を確保できます。また11時に学校の門が閉まるので、必然的に寮の門限も11時です。それ以降は朝の5時半まで外出できません。後期は台湾人の学生の家に住ませてもらっていました。学校から少し離れますが、バスも無料だし、バイクもあったので困ることはなく、むしろ冷蔵庫もキッチンもあるし、門限もないので非常に良かったです。何より常に台湾人の子と一緒にいるので、中国語上達にとってもいい環境だったと思います。

留学を通して

私は台湾留学で、語学力が身についたのは当然ですが、なにより慣れない環境で人とコミュニケーションを交わしてきたことで、自信が身に付き、誰とでも話せるようになったと思います。またいろいろな国の人たちと接して、外国の文化や、自分と考えの違う他者を理解するという事も学びました。もともとは語学を学びたいと思って決意した留学でしたが、結果的には積極的に人とかかわる力や、視野を広く持つ力が身についたと感じました。

これから仕事をしていく上では、様々な価値観、年代の人たちとうまく付き合っていかなければなりません。同じ日本人あっても全く考えの違う人は当然おり、日本の企業ならば特に協調性やコミュニケーション能力が必要とされます。価値観や考えの違う人たちと、うまくやっていく能力は、どんな企業にも求められるはずで、留学で学んだ「積極的に人とかかわる力や視野を広く持つ力」を通して、初対面の人とでも円滑に人間関係を築き、誰もが仕事をしやすい職場づくりを心掛け、どの会社でも、早く馴染んで、チームワークを大切に仕事に取り組みたいと思います。

